

## ● 佛國の名畫家コラン氏逝く

純クラシック派の畫家として有名なる佛國の畫家ラファエル・コラン氏は去月二十一日巴里に於て病死したりとの報東京なる氏の知己の許に通知ありたり享年六十七歳氏は現に佛國高等美術會議委員の顯職にあり日本浮世繪の研究、蒐集家として有名にて日本人にて氏の教へを受けたるは黒田清輝氏を初め洋畫家中に頗る多し

### ▲ 一人の妹と寂しく暮した

◇ 日本に來て居る名作

近く追悼會を營む◇

黒田清輝氏談

コラン先生が先月の二十一日巴里で逝去せられたといふ記事を米國の雜誌で見たのは去る十五日の事で初めは人違ひではなからうかと疑つても見たが哀しい哉内容を讀むに従つて人違ひでない事が判つた、夫れで佛大使館を初め其他心當りを問合して見たが皆目分らぬので兎に角其雜誌の記事により同志を計つて十八日には

▲ 弔電を發し 更に近日追悼會を營んで亡き恩師の靈に供へたいと思つて居る、先生は今年六十七歳で御宅は巴里郊外フォント子オーローヴにあり只一人のお妹さんと二人淋しく暮して居られるが私が師事したのは一八八六年から一八九三年まで七年間と一九一六年から其翌年に互る二年間とで初めは未だ先生が三十七八歳の頃であつた、元來佛蘭西人は客好きであるに拘らず先生は餘り交際上手でないのと

▲婦人に對し　て何となくはにかまれる處があるので晚餐の客は大抵極懇意の人に限られて居た、先生の師匠はカバ子ルだが其作品は兄弟子で早世したパマチヤン・ルパージュの感化を受けルパージュがやらうとした外光の研究を大成し當時印象派の徒に強烈なる色彩を並べて居るのに對し柔かで濁りのない鮮かな色を以て強い氣持を現さうとした、夫故先生の繪をサロン等で一寸見ると他の強烈な繪に蹴落されて了ふが

▲熟視すれば　自然と強い處が見えて來る、即ち先生の性格が賑かな雑音の中で思想に耽るといふ風である爲め氣のつかない人は非常に多いが而も雑音の消滅た後には自から照々と現れて來る人なのである作品は非常に多いが日本に來て居るものでは岩崎男所藏の「マンドリン弾ける女」や前田侯所藏の「庭園中に居る婦人」は傑作で佛蘭西では巴里市廳、メルボン大學、オペラコミック等の壁畫オデオン座の天井畫があり

▲其出世作は　二十二歳の時サロンで二等賞を取つた「裸體の女」である、趣味としては花を培養する事が好きで其庭園には温室を設け園丁を雇つて樂まれたが若し畫家になられなかつたら一生園藝家として立たれたかも知れない

『東京朝日新聞』大正五年二月二〇日